

点滴チューブを利用したニラ追肥のかん水同時施肥法

施設ニラ栽培における刈り捨て以降の追肥方法として、点滴チューブを利用し、かん水と同時に施肥を行うことにより、慣行管理（頭上かん水と刈り取り毎の追肥一回施用の組み合わせ）に比べて大幅に増収することが明らかと成りました。

○作型

- ・6月中旬定植、11月上旬刈り捨て、以降4月中旬までに4回収穫する作型に適應。

○定植前の肥培管理

- ・基肥：緩効行性肥料(スーパーエコロング424-140 日タイフなど) 窒素25kg/10a 相当。
- ・刈り捨てまでは無追肥。

○栽培方法

- ・4条植、畝幅1.8(畝肩幅1.2)m
- ・株間28cm×条間30cm(10a当たりの栽植密度7,500 株)

○刈り捨て以降のかん水および肥培管理

- ・マルチ下に点滴チューブを設置(4条植なら計3本設置)。
- ・点滴チューブを活用した毎日のかん水同時施肥が基本。
- ・追肥の窒素施用量：1生育期当たり6.5kg/10a。
- ・かん水中 窒素濃度：0.1g/Lが目安
(トミーブラック(10-4-6)1,000倍液など)
- ・時期別かん水量：

生育期	生育期間	かん水量
1番	11月上～12月中旬	200mL/株・日
2番	12月中旬～2月上旬	160～200mL/株・日
3番	2月上旬～3月中旬	〃
4番	3月中旬～4月中旬	200～300mL/株・日

かん水量はほ場条件や天候に合わせて加減。

- ・市販の安価な複合液肥を使用。
- ・点滴チューブの目詰まり防止対策としてフィルターを設置。



点滴チューブ設置風景



4番刈り時の地上部生育量



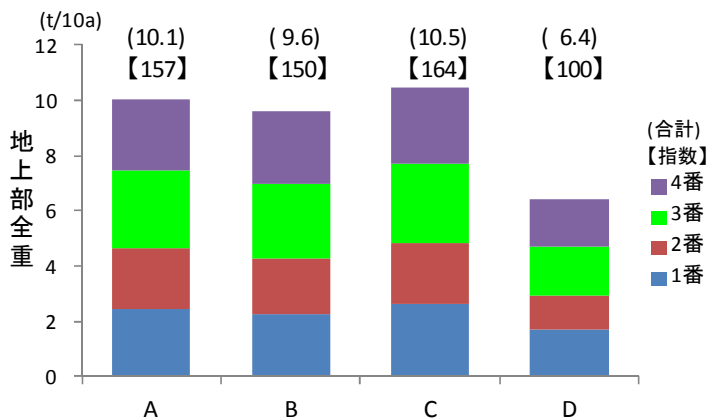
点滴チューブを用いたかん水同時施肥

* 条間に細根群が発達。



慣行

* マルチ孔直下に細根群が発達。



各生育期間における実かん水量

1番-2番-3番-4番

A: 190-210-200-290mL/株・日

B: 198-199-190-280mL/株・日

C: 200-160-160-300mL/株・日

D: 慣行(頭上かん水+ふり肥)、約7日毎に1,400mL/株

○点滴システム(自動化)初期導入コスト

- ・システム一式：約40万円/10a
(液肥混入機、制御盤、点滴チューブ、フィルター、電磁弁等)
- ・増収による販売額の増加によりシステム導入費は初年度で回収可能。